

# 看護実践・キャリア 支援センター通信

Vol.32

2025年  
12月

## 目次

・令和7年度チェンマイ大学との学術協定に基づく チェンマイ大学附属病院の看護師受入支援 (研修写真続き)	1	・看護する方も看護される方も楽になる認知症看護	3
・エドゥケーター育成プログラム	2	・対象者がどうありたいかを尊重する対話型セルフケア支援	3
	2	・キャリアデザインプログラム(3・4年)	4
	2	・対人関係の心理学 入門編	4
	2	今後のセンター事業	4



7月

## 令和7年度チェンマイ大学との学術協定に基づく チェンマイ大学附属病院の看護師受入支援



7月7日～18日にかけてチェンマイ大学附属病院から呼吸器依存病棟勤務の看護師 Kanlayanee SittiwutさんとNICU勤務看護師のLawan Thawithagさんが研修に来られました。附属病院の様々な部署の他、訪問看護施設等、日本の看護の現場を訪問、見学して学んでいただきました。

新生児看護、ICUといったそれぞれの専門分野を始め教育システムまで、附属病院の医療看護を知っていただき、興味を持った点に熱心に質問されている様子が印象的でした。訪問看護で患者のご自宅に伺った際には、Kanlayaneeさんが苦痛で俯いた患者の背をほほえみながら自然にさすった姿を見て、看護への思いは同じなのだと感動しました。ご多忙の中、研修受入にご協力頂いた施設、部署の皆さま、ご協力頂いたスタッフの皆さまありがとうございました。

### 研修写真



理事長への表敬訪問



クリケア訪問看護ステーション



フローレンスアミーニョホーム

院外での看護場面の見学にご協力いただきました



DMATの説明で救急の見学



看護部から看護職の教育体制を説明



退院支援について聞く



## 研修写真(続き)



多くの部署にご協力いただきました（写真左から医療の質・安全管理センター、B8、緩和ケアセンター）



奈良医大生国際看護の交流・院内ボランティアの皆さんが、休日には奈良等の名所を案内しました



## 7月～ 看護基礎教育・看護実践教育 「エデュケーター育成プログラム」

この研修の目的は、人材育成に関する学習を基盤として、臨地実習への対応や部署における看護職員への教育など、教育的な支援ができる看護師を育成することです。今年度は3名が受講中です。

7月30日には、看護学科の川上あずさ学科長と澤見一枝教授に講義を依頼し、「看護学教育の現状と課題」、「看護学実習の事例検討」を行いました。看護師養成の国の教育方針、看護モデル・コアカリキュラムの改訂、最近の学生の傾向などの講義を受けました。

グループワークでは学生の意欲を引き出す方法を話し合いました。受講生は来年1月に自ら企画・運営する研修をする予定です。

外部のロールプレイの研修を受けたり、研修の企画・運営について学習したり、院内の新人研修に参加したりしながら、研修企画の検討を重ねています。教育者としてますます成長されることを期待しています。



講師

川上あずさ学科長 澤見一枝教授

### 7/30 研修「看護学実習の事例検討」



プログラム受講生の他8名が参加されました



グループワークで出た意見を分析



## 9月 地域貢献事業 「看護する方も看護される方も楽になる認知症看護」

9月6日(土)に当院の認知症看護認定看護師 池内勝継さんと松田恵美さんを講師に「認知症」について実践を含めて学ぶ研修を行い、院内外から33名の参加がありました。

午前中は認知症の基礎と症状、処方薬の特徴、記憶時間、せん妄と認知症の違いなど患者への対応に必要な知識を学びました。午後からはコミュニケーション法を学びました。

続く、事例への検討では、中核症状をよく観察し、アセスメントして、その人にあったコミュニケーション方法、例えば感情に働きかける表現を使ったり、安心できる人と思ってもらったりするために、どういう言葉を選べばいいのかをグループワークで検討しました。

「患者がどう感じるかが大切」という看護の基本の大切さを改めて感じた研修でした。

講師



池内勝継 CN



松田恵美 CN



「自宅に帰りたい」という模擬患者とロールプレイ



症状を起こす原因を考えることが大事



最適な対応を検討し、発表する

## 11月 地域貢献事業 「対象者がどうありたいかを尊重する対話型セルフケア支援」



講師

日本赤十字看護大学大学院  
本庄 恵子教授

11月15日(土)に日本赤十字看護大学大学院 学科長・教授 本庄恵子先生を講師に迎え「対話型セルフケア支援」について学びました。ナイチンゲール、オレム看護論等からセルフケアの概念を概観しました。セルフケアの概念にはADLだけではなく、その人の動機づけ、意思決定が含まれます。

講義の後、本庄先生が開発されたセルフケア能力を測る質問紙 SCAQ:Self-care Agency Questionnaire を、受講者が実際に使ってロールプレイをしました。



SCAQ シートを使った演習です。

研修後のアンケートでは、講義がわかりやすかった85%、セルフケアの理解が深まった81%でした。感想には、「患者のセルフケアへの考え方を知ること、看護師側から見た患者の捉え方も変わり、患者に必要な支援ができる。」「その人がどうありたいか、その人らしく生活ができるためには対話を通してその人を理解することが大切だと改めて感じた」等があり、実践に活用できそうな内容でした。

## 11月 4年生対象 キャリアデザインプログラム 看護専門職者として、自らのキャリアデザインを考える

看護実践・キャリア支援センターでは、看護学科生にこれから看護職としてのキャリアを考える研修を行っています。

11月9日に、本大学OGである神戸市看護大学 教授 澁谷幸先生を講師に迎え、様々なチャートを用いて、本学の看護学科4年生にこれからの人生を考えてもらいました。これから社会人になる人がほとんどですが、自分の人生を考えたり、自分の傾向に気付いたりするきっかけになったようです。アンケートには、講義の中の、セレンディピティ「偶然を引き寄せて必然にする」という言葉が刺さったという回答が多く見られました。今を一生懸命生きることが、将来につながるという考えに、頑張ろうという気持ちになったようです。

講師



神戸市看護大学  
基礎看護学領域  
(看護キャリア開発学)

澁谷 幸教授



自分のライフステージを書き出してみる



## 10月～11月 看護実践教育事業 対人関係の心理学 入門編

講師



看護学科精神看護学  
奥田 淳教授

ラー心理学など様々な理論を活用して自分や他者の思いを分析する方法を学びました。

自分や人の思いを客観的に見ることで、臨床での場での患者・家族・同僚等自分の周りの人達との関わりが、少しでも円滑になることを期待しています。

本学精神看護学 教授 奥田 淳先生を講師に、対人関係で活用できる心理学の知識・技術を習得するための講義・演習を隔週木曜日、全5回(1回80分)のコースで行い、14名が修了しました。

第1回目は「ジョハリの窓」という心理学モデルを通して自己分析をしました。分析を通して自分が他者にどの程度理解されるように行動しているか、何が他者の理解を阻害しているのかを考えていきました。

また、認知再構成法、アド



自分の「窓」はどう開いているか



## 今後のセンター事業

### 地域貢献事業研修

☆「家族」の力を見極め、  
支援を考える家族看護

日時:令和8年2月11日

9:30～12:30



地域貢献事業研修掲載  
ホームページ QRコード

### 看護基礎教育・看護実践教育

★復職支援サロン

日時:令和8年2月3日

★キャリアデザインプログラム

日時:令和8年3月6日



発行元: 公立大学法人奈良県立医科大学 看護実践・キャリア支援センター (Tel.0744-22-3051 内線 3233)